1-41-01

琉球国王より満剌加国あて、呉実堅等を遣わして速やかな交易を請う咨（一四六三、八、四）

正使呉実堅、副使那嘉・明泰、通事田泰・鄭傑を差わす

琉球国王、満剌加国王殿下に咨す。

蓋し聞く、交聘睦隣は為邦の要にして、貨財生殖は富国の基なり。邇ごろ賢王の起居の康裕なるを審らかにし、深く以て慰と為す。且つ敝邦と貴国と西よりし東よりすと云うと雖も、礼信の往来、未だ嘗て少しも替らず。曩の歳復た厚恵を蒙り、懐に銘刻す。茲者特に正使呉実堅等を遣わし、礼物を齎し詣前し酬献せしめて以て寸忱を叙ぶ。伏して少留するを希う。亦た微貨有り、載装前来し殊方の土産を貿易す。煩わくは属に令行して早やかに買売を与し、風時に赶趁して回還し利便ならしめんことを。須らく咨に至るべき者なり。

今礼物を開す

色段五匹　青段二十匹

腰刀五把　扇三十把

大青盤二十個　小青盤四百個

青碗二千個

右、満剌加国に咨す

天順七年（一四六三）八月初四日

控之羅麻魯　恭字号

注

（1）満剌加国　マラッカは、マレー半島西岸の港市で、「満剌加」はその漢字表記である。十五世紀初頭ごろまでにパレンバン出身の王族が建国した。タイのアユタヤ朝の度重なる攻撃に対し、明朝の対外積極策を好機としてこれに頼って撃退した。マラッカについては『明実録』に関連記事が多くある。マラッカ海峡に面した国際貿易港として経済的発展を遂げ、強大な王国となった。

国王と在位年代について、和田久徳氏は、①パラメーシュヴァラ Parameśvara（一四〇一以前～一四一三／一四）②ムガト＝イスカンダル＝シャー Mĕgat Iskandar Shāh（一四一三／一四～一四二三）③シュリー＝マハーラージャ Śrī Mahārāja（一四二三～一四四四）④シュリー＝パラメーシュヴァラ＝デーヴァ＝シャー Śrī Parameśvara Deva Shāh（一四四四～一四四五）⑤ムザッファル＝シャー Muẓaffar Shāh（一四四五～一四五六／五九）⑥マンスール＝シャー Manṣūr Shāh（一四五六／五九～一四七七）⑦アラーウッディーン ʿAlāʾu'd-dīn（一四七七～一四八〇頃）⑧マフムード＝シャー Maḥmūd Shāh（一四八〇頃～一五一一）としている。これに対し生田滋氏は、①パラメスワラ　②ムガット・イスカンダル・シャー　③スリ・マハラジャ　④スリ・パラメスワラ・デーヴァ・シャー、称号を改めてムザファール・シャー　⑤マンスール・シャー　⑥アラー・ウッ・ディーン　⑦マフム

ド・シャー、としている。

マラッカは、ムザファール＝シャーのころに本格的にイスラム化し、東南アジアのイスラム化の基地となった。一五一一年、ポルトガルの占領により王国時代が終わった。文献として、トメ・ピレス『東方諸国記』生田滋他訳注（岩波書店、一九六六年（特に三七七―四九八頁、五七五―五九六頁））、生田滋「マラッカ王国における国家形成の過程」（山本達郎編『東南アジアにおける権力構造の史的考察』竹内書店、一九六九年）、和田久徳「モスレム国家マラッカの成立」（『東洋史研究』三四―二、一九七五年）、同「マラッカ国諸王の在位年代」（『お茶の水女子大学人文科学紀要』二九、一九七六年）、等がある。

（2）為邦　くにを守ること。

（3）曩の歳復た厚恵を蒙り　『歴代宝案』は全体として正統八年（一四四三）から天順四年（一四六〇）までの文書を欠いている。しかし本文書以前に、琉球とマラッカ間に頻繁な往来があったと思われる。例えばトメ・ピレス『東方諸国記』は、マラッカ王ムザッファル＝シャー（注（1）参照）の時期にレキオ人と関係が緊密であったことを記す。

（4）控之羅麻魯　こしらまる。船の琉球名については〔一六―二一〕注（11）参照。

1-41-02

琉球国王より蘇門答剌国あて、達古是等を遣わして速やかな交易を請う咨（一四六三、八、四）

琉球国王、謹んで蘇[1]門答剌国王殿下に咨す。

曩者、音問往来し、儀物交互せるは睦隣の要に非ざる無きなり。邇ごろ聞くに、賢王、恩は一国に加え、利は四隣に及び、欣羨の至りなり。且つ、貴国と敝邦と交通すること自ら他の比に非ざるもの有り。今、特に正使達古是等を遣わし、礼物を齎して以て寸謝を申ぶ。伏して希わくは、笑領すれば幸と為さん。亦た瑣碎の物貨有りて来船に装載し、殊方の土産を貿易す。乞う、属に令行して買売を作[2]成し、早やかに回帰するを与して利便ならしめんことを。須らく咨に至るべき者なり。

今礼物を開す

緑雲段二匹　柳黄三匹
青段二十匹　腰刀五把
扇三十把　大青盤二十個
小青盤四百個　青碗二千個

右、蘇門答剌国に咨す

天順七年（一四六三）八月初四日

呉羅麻魯　安字号船

正使達古是、副使蒲嘉麻・衛巴路、通事王